

視聴覚教育時報

No.715 2019年 6月号

contents

▽令和元年度 第1回文書理事会について

▽平成30年度 全視連研究プロジェクト「地域メディアセンター事業事例」

＜事例1＞岩手県 中央地域視聴覚ライブラリーの実践～16ミリ映写機を通した「学習
機会の提供」と「技術支援」

▽講師派遣事業の研修会参加者へのアンケート結果から

▽えすけーぷ

▽令和元年度 第1回文書理事会について

本年度第1回理事会は、去る5月31日付全視連第1-7号文書をもって、6月21日を理事会指定日として文書理事会のご案内を致しましたが、各理事から全議案についてご承認をいただきましたので、お知らせいたします。

議案に関する反対意見は特になく、原案通りに承認いただきました。

【文書理事会により決定された事項】

第1号議案

平成30年度事業報告書（案）に関する件

第2号議案

平成30年度収支決算報告書（案）に関する件

第3号議案

平成31年度事業計画書（案）に関する件

第4号議案

平成31年度収支予算書（案）に関する件

▽H30年度 全視連研究プロジェクト「地域メディアセンター事業事例」報告書

全視連の専門委員からなる「地域メディアセンター構想研究部会」では、平成30年度、地域における学びに役立つメディアサービスを充実させていくために、視聴覚センター・ライブラリー機能をどうリフレッシュさせるかの調査研究を実施した。

報告書では「事例編」として5名の委員が執筆者となり、「メディアを学ぶ」「メディアを創る」「メディアを送る」「メディアを使う」というテーマに沿って執筆した。本時報では今後「1岩手県」「2千葉県」「3栃木県」「4仙台市」「5新潟県」の順で事例を紹介する。

＜事例1＞岩手県 中央地域視聴覚ライブラリーの実践～16 ミリ映写機を通した「学習機 会の提供」と「技術支援」

1. 取組のねらい

「盛岡教育事務所管内教育振興協議会 中央地域視聴覚ライブラリー」は、盛岡教育事務所管内 8 市町の共同出資で設置した協議会が運営するライブラリーである（以下「盛岡中央ライブラリー」と表記する）。盛岡中央ライブラリーは、岩手県内で中心的な役割を担っているライブラリーである。

視聴覚教材は、幼児や児童を対象とした物から高齢者向け、職員研修用と幅広いジャンルの物を約 1,500 本所蔵している。コンプライアンス関係の教材は、近年、公務員等の職員研修の中で多く活用されている。

本取組は、16 ミリ映写機を通した「学習機会の提供」と「技術支援」をねらいとし、盛岡中央ライブラリーの実践を紹介する。

2. 取組の概要

（1）学習機会の提供

①16 ミリ映写機操作技術講習会

16 ミリ映写機操作技術講習会は、歴史が古い事業である。平成 29 年度からは、受講者が地元に近い会場で受講できるように盛岡教育事

務所管内 8 市町を移動して実施している。

受講者の職種は、社会教育指導員、児童センター職員が多く、受講目的は、「業務に必要だから」がほとんどである。「16 ミリフィルムを上映または 16 ミリ映写機を操作するのは『16 ミリ映写機操作技術講習会修了証』を持っている方」という貸出の条件があるためだと思われる。

＜趣旨＞

- 16 ミリ映画教材の利用を推進するため、16 ミリ映写機等の使用管理に必要な知識と技術取得の講習会を開催し 16 ミリ映写機操作技術者の養成を図る。

＜講習内容＞

- 講義（使用テキスト「16 ミリ映写機操作技術の手引き」岩手県地域視聴覚教育協議会連絡協議会事務局発行）
- 実技演習と試験（16 ミリ映写機操作と 16 フィルム接合）
- 筆記試験



講義



16 ミリ映写機操作



16 ミリフィルム接合

②映画会担当者研修会

＜趣旨＞

- 各種視聴覚教材を利用した映画会実施のための実践的研修を行い、担当者の資質向上と視聴覚教材の利用促進を図る。

＜対象＞

- 社会教育施設職員、児童センター職員、



試写

社会教育行政職員等

＜内容＞

・演習、事例発表、情報交換、試写・説明等。
 開催年度により内容は異なるが、参加者からの要望が多い「試写」は、毎年行っている。試写する教材は、16ミリフィルムとDVDで、新規購入教材や、担当者お勧めの教材、人気のある教材等である。毎回、4～5本の教材を紹介している。



情報交換

(2) 技術支援 映写ボランティア「シネマ友の会」の実践

①映写ボランティアの概要

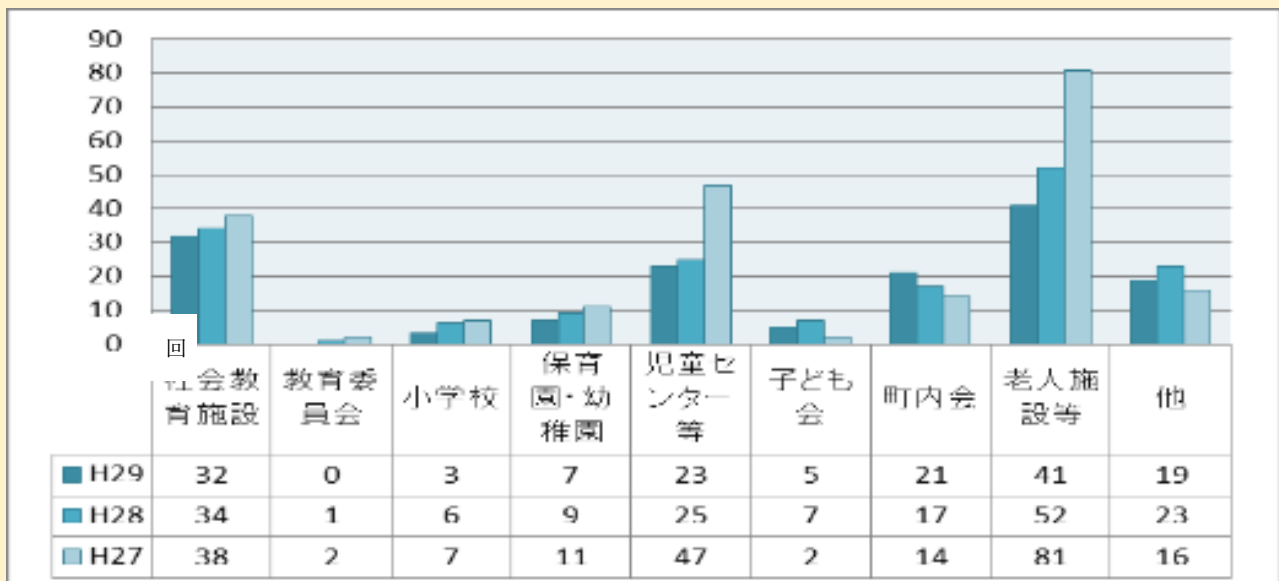
映写ボランティア「シネマ友の会」は、岩手県で開催された生涯学習フェスティバルをきっかけに、平成10年に発足した。平成30年現在は20名が登録しているが、実質活動しているのは5名で、平均年齢は73歳。主な活動は、映画会での映写機操作である。ボランティアのメンバーは、自営業や元映画館技師、元NHK職員等。利用者からの要請があった場合に「盛岡中央ライブラリー」がボランティア派遣の調整を行っている。



冬休み親子映画会

②映写ボランティアの活動実績

[ボランティア派遣場所]

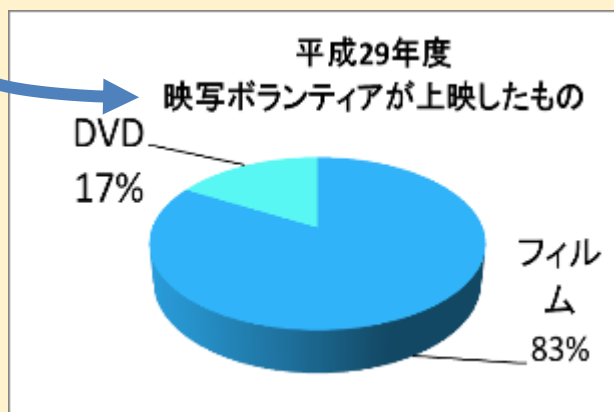
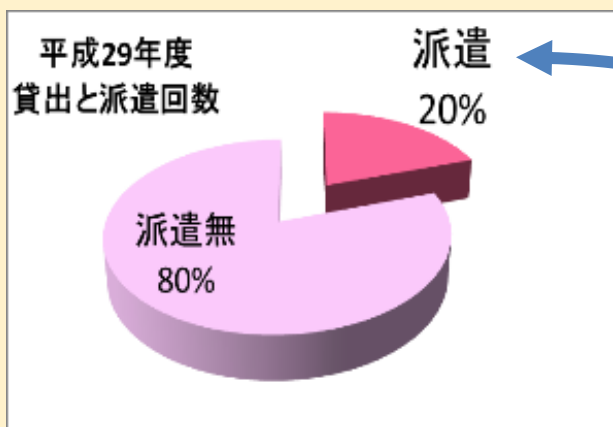


[全体貸出と派遣回数]

	全体貸出	派遣回数
平成 29 年度	761 件	151 回 (20%)
平成 28 年度	686 件	174 回 (25%)
平成 27 年度	720 件	218 回 (30%)



素敵な街の映画会



平成 29 年度において、151 回の派遣で映写ボランティアが上映した数は、357 本。そのうちDVDは 60 本 (17%)、フィルムは 297 本 (83%) の上映が行われた。また、151 回の派遣で映写ボランティアは、延べ 258 名が活動した。

3. 取組の成果

(1) 学習機会の提供

① 16 ミリ映写機操作技術講習会

- 受講者は目的意識を持ちながら受講しているため、真剣さが感じられる。実技では小グループに 1 人ずつ講師がついて指導するので、受講者一人ひとりがじっくりと演習できる。毎回、最初は緊張気味な受講者も、演習をとおして、徐々にお互いに教え合う姿が見られるようになり、交流も図られている。

② 映画会担当者研修会

- 「試写」は、各地域で行う映画会の参考になっている。実際に自分で見た教材は、対象者の実態に沿うかどうか、担当者自身で判断できるためである。
- 「情報交換」は、各地域の取組や課題について話し合い、日頃の悩みを共有したり新しい情報を得たりする、よい機会となっている。

(2) 技術支援

- 子ども会や老人施設等では、16 ミリ映写機操作の資格保有者がいないことが多い。16 ミリフィルムを上映するにあたり映写ボランティアの存在は不可欠である。フィルムや映写機の説明も好評である。
- 16 ミリフィルム特有の音や雰囲気等に親しみを持っている高齢者も多く、老人施設での上映会においては、映写ボランティアのニーズが高い。

《 利用者からの感想 》

- お二人とも機材の取り扱いに熟知しており安心して任せることができた。トラブルもなく最後まで上映することができた。また、DVD上映についての相談にのってもらい、解決策を提案していただき大変助かった。ボランティアの方の技術や知識はとても得難いものなので、今後も元気で頑張っていたきたい。
の内
 - フィルムの音を聞きながら映画を見るということ
- ことは今ではなかなかできないので、子ども達にとって貴重な体験ができたと思う。
- 準備から後片づけまできっちりとしていただいた。参加者へ語りかけたり映写容説明をしていただいたりしたので、参加者がとても喜んでいった。

《 映写ボランティアから 》

ア 16ミリフィルムの魅力

- フィルムには、DVDには無い臨場感や映像の深み、温かさが感じられる。
- 映写機特有の「カタカタ」という音も映画の雰囲気醸し出している。
- 部屋が暗い状態で上映するため、周りを気にせずに、映画の世界に浸ることができる。

イ 映写ボランティアの活動をとおして

- 映画を観ている人たちが、映画の世界に入り込んでいることが分かった時に、映写ボランティ

アとしてのやりがいを感じることができる。

- 準備の時間等を使い、16ミリフィルムや映写機の説明を行う等、利用者とのコミュニケーションをとりながら上映すると、一体感を味わうことができる。
- 高齢者が一人で来ても、気軽に楽しむことができる無料の映画会を、身近な場所で行っていききたい（孤独な高齢者を減らしたいという思い）。
- 後継者を育てて、16ミリフィルムの上映が続けられるようにしたい。

4. 今後の可能性

(1) 学習機会の提供

- ① 16ミリフィルム映写機操作技術講習会においては、認定のための講習会だけではなく、資格取得者のフォローアップとしての講習会の開催も、検討していきたい。
- ② 映画会担当者研修会は、担当者のニーズに応じた研修会になるよう、研修会後のアンケート等を工夫していく。

(2) 技術支援

- 技術だけではなく知識も豊富な映写ボランティアの存在は、たいへん大きいものである。今後も継続して支援していくために、人材育成にも取り組んでいく必要があると思われる。
- 映画会は映写ボランティアと利用者が時間を共有して、一緒に行うものである。利用者とのコミュニケーションをとりながら、楽しい映画会にしていきたいものである。

< 執筆者：盛岡教育事務所教務課主任社会教育主事 桑原玲子（平成30年度の所属） >

▽講師派遣事業の研修会参加者へのアンケート結果について

はじめに

全視連では一昨年度まで「新教育映像普及事業」「全視連推奨作品提供事業」を実施してきました。この事業目的は、全視連が各映像教材製作販売会社の協力を得て、良質な映像教材を選んで推薦し、購入頂いた視聴覚センター・ライブラリーを対象に、その映像教材の利用効果を利用者の視点から調査し、その結果を映像教材製作販売会社等に情報提供し、さらに優れた映像教材の企画・製作、そして利用に活かして頂く事にあります。

平成30年度より、講師派遣事業研修会参加者を対象に映画や録画教材の価値観を認識して頂く意味と利用者が求める映像作品情報を知るため、各映像教材製作販売会社と協議して、各視聴覚ライブラリー関係者や利用者へ「全視連推奨作品提供事業」に関するアンケートを実施しています。

今回、昨年度実施した「全視連推奨作品提供事業」に関するアンケート調査結果を取りまとめた関係機関や映像教材製作販売会社等に情報提供すると共に、全視連ホームページに詳細を掲載致しましたのでご覧ください。

【全視連ホームページ】

http://www.zenshi.jp/files/enquete_2018.pdf

1. アンケート実施の目的

この調査では、下記7県の講師派遣事業研修会の関係者・受講者を対象に利用者が求める市販映像教材についての意識調査を行って市販映像教材の質的向上を図る事を目的として実施しました。

2. アンケートを実施した県での研修機会

①岩手県地域視聴覚教育協議会専任職員等研修会

②愛知県視聴覚教育連絡協議会中央研修会

③新潟県立生涯学習推進センターメディア研修特別講演会

④群馬県教育メディア指導者養成講座

⑤愛媛県視聴覚教育研究大会（第59回）

⑥岐阜県生涯学習視聴覚フォーラム

⑦千葉県視聴覚教育メディア研究大会

3. アンケート実施結果

アンケートを実施した結果、ライブラリー関係

者57名、一般参加者67名合計124名の方々より回答を頂きました。詳細については、前記の全視連ホームページをご覧頂くとして、本稿では、研修会関係者から全視連奨励作品調査研究についての理解度及び参加度、全視連推奨作品と価格の関係、制作希望等について、研修会参加者から映像利用及び対象、望ましい映像作品等について回答を頂きました。

4. アンケート結果の考察

(1)「全視連推奨作品調査研究事業」について研修会関係者の認知及び参加

まず、研修会関係者を対象とした調査問1として全視連が行っている「全視連推奨作品調査研究事業」について、どの程度知っているかを調査してみました（図1）。その結果、研修会関係者57

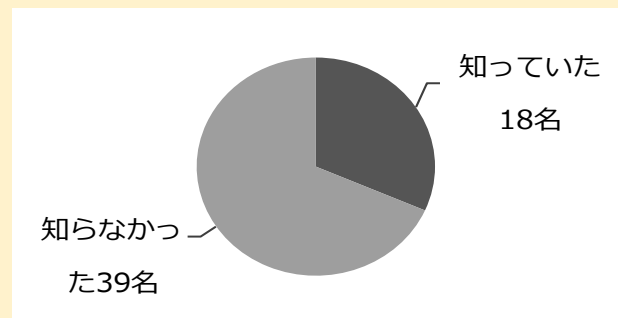


図1. 調査研究事業の認知度

名のうち、知っていると回答された数は18名、知らなかったと記入している数39名で、およそ65%近くが認識していない結果が示され、アンケート調査を行った全視連としては意外な数値が示されていました。

では、「知っていた」と答えた18名の方に「全視連推奨作品調査研究事業」に参加したことがあるか？との設問に対して、図2のように参加した

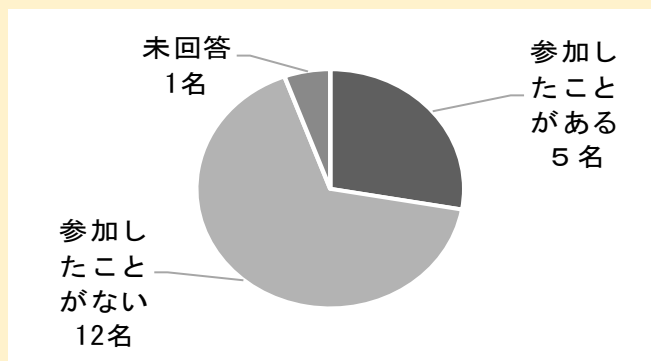


図2. 調査研究事業への参加度

ことがある、と回答された方はわずか3分の1にも満たない状況でした。

また、参加したことがないと回答された方は、参加しなかった理由として、貸出実績が少なく参加に至らない、予算積算や資料選定とのタイミングが合わない、事業縮小するため参加できない等々が挙げられていましたが、注目したのは「情報が来ない」「行政サイドからの連絡のなさ」等をあげた回答があり、今後検討すべき課題でしょう。

(2) 全視連推奨作品と予算の関係について

次に、全視連が推奨する優れた作品であっても、教育メディア関係施設としては予算等の関係もあり、その予算はどのようになっているか調査してみました。

図3から見ると、57名のほぼ半数が購入予算

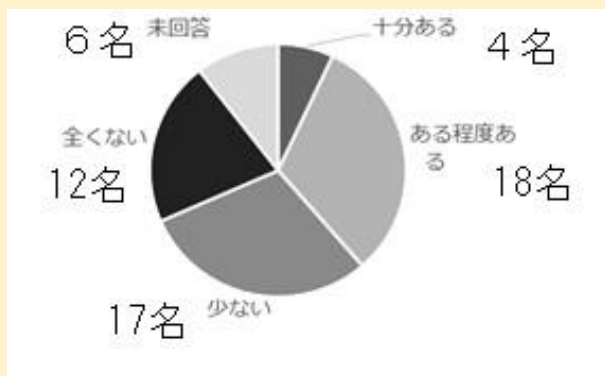


図3. 作品購入予算状況

の状況については不備な状況にあると回答しているのに対して、やや半数には足りないが40%近くは購入予算が維持されていると回答しています。

本稿では取り上げませんでしたが、全視連推奨作品の価格の問題については、約80%近くの方が作品の内容が良くても価格が高ければ買い控えるなど、価格が購入に影響があると回答しています。また、出来たら今後購入したいと思っている映像作品のテーマ/内容については、次のような記述が見られました（複数回答以上を記載）。

- ・道徳（4）
- ・人権教育関連（2）
- ・高齢者向け（2）

その他の要望事項として、「16ミリフィルムのデジタル化や有効活用について、安く効率よく進めてく方法について情報が欲しい」「予算の少ない中、ハードやソフトの老朽化にも直面している」「すでに購入しているソフト財産の著作権処理などによる延命化などについて教えて欲しい」等がありました。

(3) 研修会等参加者の映像利用及び対象について

一口に研修会等参加者と言っても、回答傾向から見ると、大半は学校教育関係や生涯学習施設関係等の方々が見込まれますので、全視連推奨作品調査研究事業を推進する上で、利用者の視点から見た貴重な回答となっています。まず、映像を利用する場所としては、図4が示すように学校が約半数、地域・職場等で約4分の1程度と大多数が学校及び地域での学びや集いの場等で利用されているようです。

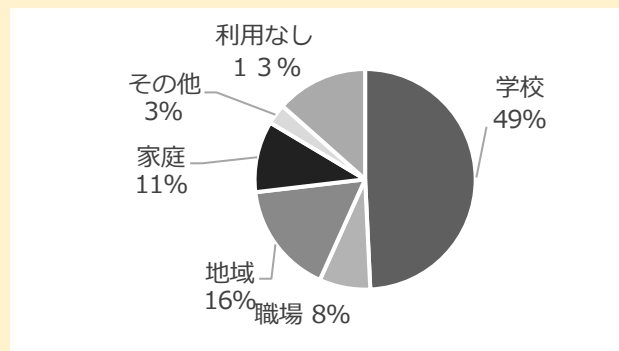


図4. 映像利用の場所
(回答数：67（複数回答有り）)

図5の映像利用の対象についても、幼、小、中、高校など児童・生徒が多く、教科指導やホームルーム、学校行事等での利用、地域や職場では自治

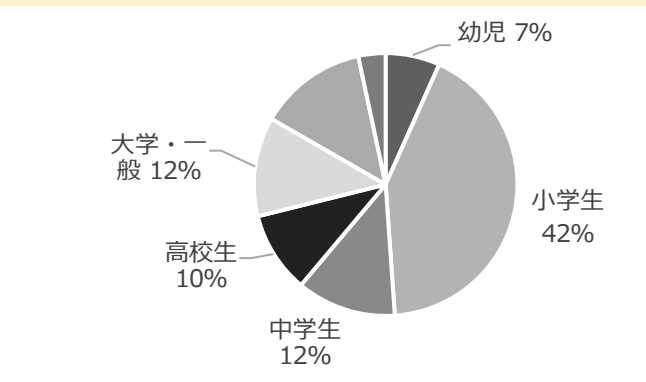


図5. 映像利用の対象
(回答数：67（複数回答有り）)

会活動、サークル活動、公民館活動、ボランティアによる映画観賞会、子ども映画会等が上げられています。

また、利用する側として、どのようなテーマ・内容の映像が欲しいか希望を列記して頂いた所、多くのジャンルとテーマがあげられていました。

そのうち、複数回答があったのは下記9項目でした。

- ・道徳教材（５）
- ・プログラミング（５）
- ・英語教育（４）
- ・理科（４）
- ・社会（２）
- ・伝記（人物伝）（２）
- ・国際理解、国外情報（２）
- ・防災（３）
- ・シニア世代が活用を促す内容のドキュメンタリーなど（２）

その他の要望事項として、ICT環境を生かした教材提供、著作権処理の問題、教材提供サービスの在り方等が記載されていました。

おわりに

今回のアンケート調査回答を通して、全視連推奨作品調査研究事業を進めるにあたり、全視連や視聴覚センター・ライブラリーが配慮すべき事柄が明確になりました。

例えば、研修会関係者（視聴覚ライブラリー等を含む教育メディア関係者）及び研修会参加者共に、全視連推奨作品調査研究事業に関する情報提供、視聴覚教育関係施設等の認知拡大、優れた映像作品への期待、教材の価格問題等、今後の全視連及び視聴覚センター・ライブラリーが取り組むべき課題が具体的に示され、これからの事業推進のために役立つアンケート調査となりました。

▽えすけーぷ

先日、フランスにあるビジネススクール HEC Paris（アッシュ・ウ・セ・パリ）の MBA 修士課程の卒業式に出席してきました。全体の 90% 近くがフランス以外の国から学びにきている経営大学院です。400 名程度の卒業生とその家族や関係者を収容する仮設の巨大テントの正面には学長や教員などが並び、その両脇には巨大なモニタースクリーンが 2 台設置され、式典が始まる前から式典が終わるまで、映像が効果的に流されていました。

流されていた映像は、式典の様子が後ろの席でもわかるようにカメラで撮影している映像だけでなく、各課程毎の 2 年間の活動をダイジェスト版にした映像が、卒業生代表のスピーチの後に流されたため、卒業生も家族も大喜びでした。聞くところによると、こうした映像は外部に発注するのではなく、大学関係者や学生が関わって作成しているそうで、クオリティの実に高い映像もありました。

HEC Paris では、日頃からホームページや Facebook、instagram など学校の様子や学生の紹介映像を公開しており、映像による情報発信を重視していることがわかります。

大学の情報発信としての映像作品を見ると、視聴覚センター・ライブラリーの映像情報発信能力はどの程度のだろうかと考えさせられます。買い貯めた映像作品の貸し出しはしていても、映像による情報発信はできているのでしょうか。そもそも映像制作がどの程度できているのでしょうか。買い貯めた映像作品の貸し出しだけでは、かつての貸本屋さんが時代の変化とともになくなっていったのと同じ道を辿るのではないのでしょうか。

視聴覚センター・ライブラリーの映像情報発信能力を高めていく取り組みを全視連として取り組んでいく必要性を感じたひと時でした。

(TM)

全国視聴覚教育連盟

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-10-11 虎ノ門 PF ビル

TEL : 03-3431-2186 / Fax : 03-3431-2192

HP : <http://www.zenshi.jp/>

Mail : info@zenshi.jp

東映 教育ソフト Line-up!

道徳・特別活動

いじめ 心の声に気づく力

小学校中・高学年向けのいじめ防止教材ドラマです。一見遊びに見える行為も、相手が苦痛を感じていれば「いじめ」であることを理解し、傍観者にならず、解決のために何か行動しようとする意識を持つことをねらいとしています。



(19分)

指導の手引書・ワークシート付き

66,000円(税抜)

いじめ 一步ふみ出す勇氣

中学生向けのいじめ防止教材ドラマです。いじめの傍観者だった主人公が葛藤し、仲間と一緒にいじめの被害者を救ってほしいとする感動的なストーリーを通して、いじめ解決のために一步ふみ出すことの大切さを伝えます。



(19分)

指導の手引書・ワークシート付き

66,000円(税抜)

小学校 社会科

なぜなに社会科 映像資料集

DISC1 飲料水・電気

知りたい! 浄水場 (11分)

知りたい! 火力発電所 (11分)

知りたい! 自然エネルギーを使った発電 (14分)

DISC2 ごみ処理・下水道

知りたい! 清掃工場 (10分)

知りたい! 資源のリサイクル (13分)

知りたい! 下水処理場 (12分)



次期学習指導要領に向けた、小学校社会科の新シリーズ。最新の映像、的確な構成で、社会の中の様々な事象を紹介します。とことん映像の力で見ていく社会科教材の王道をいくシリーズです。

監修：東京都台東区立金亀小学校 校長 古谷尚律

DISC1 3タイトル+映像クリップ 本体価格:66,000円(税抜)

DISC2 3タイトル+映像クリップ 本体価格:66,000円(税抜)

小学校 道徳・特別活動・防犯

情報モラルを身につけよう!

小学生のスマホの安全な使い方教室

1巻 自分も相手も傷つけないために (21分)

2巻 危険な目にあわないために (18分)

スマホを利用してトラブルに巻き込まれる小学生の事例をドラマで描き、子供たちに安全で正しいスマホの使い方をわかりやすく解説した作品です。情報モラルを身につけることの大切さを子供たちに訴えます。

監修：兵庫県立大学環境人間学部 准教授 竹内和雄



教育映像祭優秀賞受賞

各巻 66,000円(税抜)

2巻セット 120,000円(税抜)

文部科学省特別選定
学校教育教材・社会教育(教材)

指導の手引書・ワークシート付き

お問い合わせ・チラシ請求は

☎ 03 (3535) 3613 FAX03 (3535) 3632



<http://www.toei.co.jp/edu/>

教育映像 検索



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17

(価格は税抜きです) ●学校向け特別価格もございますので、お気軽にお問い合わせください。

<http://www.toei.co.jp/edu/>